

青葉区八幡地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 12 月)

1. 八幡地区の環境

八幡地区は地理的には仙台市郊外の西部に位置しており、地区内には広瀬川が流れ、国宝大崎八幡神社等の古くからの神社、仏閣も多く、古い住宅が残る仙台市内でも比較的自然が多い土地柄です。しかし、近年高層マンションが急増している地域でもあります。震災時は建物等の大規模な倒壊はなかったものの、震災直後はブルーシートに覆われた建物が散見されました。3年半の時間の経過とともに損傷を受けた家屋も修復が済み、最近ではようやく元に戻りつつあるように見えます。

2. 震災時

定例会終了と同時に震度 6 強の強い揺れを感じ、開催場所のコミュニティセンターの建物が倒壊するのでは、と不安になりながらも身体を支えるのに精一杯だったことを覚えています。委員全員が急遽担当地区に戻り、高齢者の安否確認にあたりました。担当地区では避難所になった小学校体育館に 500 名を超す住民が避難され、通路も確保できないほどの状態で、停電や寒さに耐える高齢者や幼児の痛々しい姿がいたるところに見られました。非常に悲惨な光景でした。日常生活が一変した信じられない光景が広がっていたのです。また、当地には留学生会館もあり、外国人の方がたも数多く避難されていました。非常事態ということもあり、当時は学校関係者が避難所の運営にあたり、徹夜で避難者を見守り、翌朝は日赤奉仕団の役員がアルファ米を利用した朝食を配り大変喜ばれました。

3. 現在

震災から 3 年半が過ぎ、避難所運営の反省を含め、町内会、学校、社協、民児協が連携して避難所運営マニュアル、防災マップを作成し、毎年 5 月に防災訓練を実施しています。また、復興公営住宅が一棟完成し、被災者が入居しました。社協との共催による音楽祭等を開催し、入居者との交流を図っているところです。

4. 最後に

多くの被災者を迎え、社協とも協力しながら地域の方々とのコミュニケーションを図り、共生できるよう努力していく所存です。

今般の大震災には、全国の民児協の皆様より心温まるご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。